P09

歯肉炎をターゲットにした健康教育媒体 Make a Smile の教育効果

○松岡奈保子　西本美恵子　柏木伸一郎
岩男好恵
NPO 法人ウェルビーイング

【目的】乳幼児から学童、生徒と成長するにつれ歯科の健康問題は、う蝕のみならず、歯肉炎が増加する。この時期は、思春期にあたり、思春期の特徴を考慮し、健康教育を実施することが必要である。NPO 法人ウェルビーイングは、思春期の歯肉炎をターゲットとした健康教育媒体「Make a Smile 思春期編」を開発し、この媒体を使い教育効果を確認したので報告する。

【方法】歯科医院に定期健診を目的に来院した 60 名（平均年齢 11.6±2.3 歳）に歯科衛生士が「Make a Smile 思春期編」を使い個々に健康教育を行った。その後、自記式質問紙を用い、歯肉炎の理解、予防に対する信念、自己診断の有無等を調査した。自由に記述された感想は、KJ 法を使って分類し、コード化を行った。

【結果】歯肉炎が理解「できた」者 83.3%、「歯肉炎の予防はできる」「とてもそう思う」者は 63.3%で、歯肉炎の理解が深まり予防出来るという信念が高められていた。自分の歯肉をチェック「できる」と答えた者は 95%と非常に高かった。自由記述から、“歯肉炎の症状・原因”や“歯肉炎の予防法”を学び、“歯肉炎は予防できること”や “自分の歯肉の状態”を知り、“歯肉炎は予防できるという確信”“歯肉炎予防の意欲”を高めていることが記述されていた。嬉しかったこととして “自分の症状がわかったこと”があげられていた。

【考察】自記式質問紙調査の結果から、「自分の歯肉の状態がわかった」「歯肉炎の原因、症状を学んだ」「歯肉炎の予防法がわかった」という来院者の歯肉炎に対する気づきが確認され、「Make a Smile 思春期編」を使用した健康教育の効果が認められた。

P10

Denys-Drash 症候群の患児への歯科的アプローチの 1 例

○山座治義*、柳田憲一**、増田啓次**、西垣奏一郎*、山口　登*、野中和明*
九大・院歯・小児口腔医学分野*、九大病院・小児歯科**

［緒言］Denys-Drash 症候群は、泌尿生殖器奇形、ネフローゼ症候群、Wilms 腫瘍を主徴とし、WT1 遺伝子変異を伴う疾患である。われわれは先天性ネフローゼ症候群および末期腎不全により腹膜透析が導入され、Denys-Drash 症候群と診断された症例を管理している。患児の口腔内所見として歯牙の一部に軽度のエナメル質形成不全および鉄剤による歯牙への着色を認める。そこで、本症例の当科での歯科的アプローチの概要を報告する。

［症例］患児は 2 歳 3 か月の女児。1 歳 2 か月時にう蝕診査目的で近医歯科医院を受診。その後、定期的なう蝕予防管理で通院していた。当院へは腎不全による腹膜透析の継続で小児科を定期的に受診しており、遺伝子検索では WT1 遺伝子 Exon8 に変異が認められた。体重増加を待って腎移植を計画していることから、当院小児科担当医の助言により当科での口腔管理を保護者が希望。かかりつけ歯科医院からの紹介で、平成 23 年 4 月 20 日に当科初診となった。初診時に └B 唇面近心部にエナメル質形成不全による着色と、全顎的に歯牙に褐色の色素沈着が認められた。初診時は患児の協力度が低いことから、エックス線撮影によるう蝕精査ができなかった。小児科担当医の指示により、粉ミルクに 1 日 100 kcal になるように粉アメを併用して栄養摂取の不足分を補っている。

［経過］当院小児科との連携で、鎮静下でのエックス線撮影を行った結果、う蝕は認められなかった。当科では定期的な口腔清掃および口腔衛生指導を患児と保護者に行っている。

［考察］本症例は腎不全による腎移植前であることから、口腔内感染源に対する予防が大きな課題である。しかし、患児は経口による栄養摂取が十分でないため、砂糖を併用した哺乳中である。従ってう蝕へのリスクが非常に高く、患児および保護者への口腔衛生指導が必要とされている。